

建築研究所ニュース



平成20年11月4日

「地震に強い住宅に関する国際シンポジウム」開催について

2008年の中国・四川省大地震、2007年のペルー・ピスコ地震、2006年のインドネシア・ジャワ島中部地震、2005年のパキスタン北部地震などの近年連続して起きている地震による甚大な被害から、地震災害の軽減が地震地域共通の喫緊の課題となっています。日本も1995年の阪神・淡路大震災で大きな被害を蒙りました。これらの犠牲者の大部分は、地域の材料を使って、工学的知識の十分でない労働者により建設される**庶民住宅や小規模のコミュニティ建築物**（ノンエンジニアドと呼ばれています）の**倒壊**によるものです。

このような開発途上国の地震被害の軽減に取り組んできている、**建築研究所、政策研究大学院大学と国連地域開発センター**は、今回、添付のとおり、共同で3部構成の**国際シンポジウム**を世界の専門家を招聘して開催します。第1部は、安全な住宅作りの主体である住民の地震リスクについての認識（地震の発生頻度や地震の被害をどう予測しているかなど）について8ヶ国の比較を中心に議論します。第2部は、重要な役割が期待される建築基準が十分守られない実情に焦点を当てて議論します。第3部では、技術者が関与しないで建設されるというノンエンジニアド住宅に特有の事情を考えながら、安全な住宅づくりのためにどういった取り組みをしたらいいかについて意見を交わします。

日本を含めた**地震地域の共通の重要な課題**を、**世界の専門家と一緒に考える**機会です。多くの方の参加をお待ちしています。

（内容の問合せ先）

独立行政法人 建築研究所

国際協力審議役

氏名 榎府 龍雄、今井弘

電話 029-879-0689 （直通）

E-mail narafu@kenken.go.jp

「地震に強い住宅」に関する国際シンポジウム

世界共通の課題を一緒に考える



数々の大地震を受けて、今、世界では、地震災害を減らすことが強く望まれています。地震による死因の多くは、自分の家の倒壊によるものです。しかし、世界ではまだ多くの人がノンエンジニアド(技術者が関わらない)で造られた、レンガ、石や木材など材料を使った地震に弱い住宅に住んでいます。緊急対応や救助が効率的に行われても、亡くなった人は戻りません。どんなに効果のある耐震技術が開発されても、人々がそれを使わなければ安全な住宅はできません。

そこで「地震に強い住宅」に関する国際シンポジウムでは、耐震コミュニティ作りに向けて、いかに住宅の安全性を向上させることができるかについて、関心を持つ幅広い分野の方々で議論を行います。

開催日: 2008年11月28日(金) - 29日(土)

会場: 政策研究大学院大学(GRIPS)内、想海楼ホール

〒106-8677 東京都港区六本木7-22-1

大江戸線六本木駅下車出口7より徒歩5分

日比谷線六本木駅下車出口4Aより徒歩10分

千代田線乃木坂駅下車出口5より徒歩6分

参加費: 無料 (事前登録必要)

使用言語: 英語および日本語(同時通訳あり)

主催: 建築研究所(BRI)、政策研究大学院大学(GRIPS)

国連地域開発センター(UNCRD)

後援: 国連防災戦略(UN/ISDR)、ユネスコ(UNESCO)、

内閣府、国土交通省、国際協力機構 * 予定含む



<http://www.grips.ac.jp/jp/about/access.html>



独立行政法人
建築研究所



政策研究大学院大学



UNCRD
国連地域開発センター

プログラム

2008年11月28日(金)

9:00-9:30 受付

参加申し込み・問い合わせ
建築研究所 岡倉・今井 宛
Tel: 029-864-6641
Fax: 029-864-2989
EM: sympo-2008@kenken.go.jp

第一部 地震リスク認知と防災政策

- 9:30-9:40 オープニング 開会挨拶 政策研究大学院大学学長 八田達夫
来賓挨拶 国土交通省住宅局長(政策研究大学院大学客員教授) 和泉洋人
- 9:40-12:30 パネルディスカッション
「地震リスク認知の理解と防災政策への示唆」

地震リスク認知調査の概要 政策研究大学院大学 岡崎健二

[インドネシア] バンドン工科大学 ワヤン・センガラ	[ネパール] ネパール地震工学協会(NSET) アモッド・ディキシット
[パキスタン] プレストン大学 ナジブ・アーメド	[トルコ] イスタンブール工科大学 イルマ・カラツナ
[フィジー] 鉱物資源省 ラサルサ・ヴェティバウ	[インド] インド工科大学ボンベイ校 ラヴィ・シンハ
[フィリピン] フィリピン大学 マルケサ・レイアス	[日本] 筑波大学 梅本通孝

第二部 基準から現場へー建築基準普及への挑戦ー

- 13:30-13:40 オープニング UNCRD所長 小野川和延
- 13:40-15:00 【セッション1】 地震にまけない住宅：これまでとこれから

基調講演: 地震と在来建築 インド内務省国家地震顧問 アナンド・アリア教授 (インド)
震災復興から学ぶ テディ・ブーン (インドネシア)

報告: 建築基準の創設ーネパールの経験 都市・建築局長 スルヤ・サンガチェ (ネパール)
工学と建設のギャップを埋める 建築研究所 榎府龍雄

- 15:00-15:20 休憩
- 15:20-16:35 【セッション2】 建築基準の実施

基調講演: もうひとつの課題:既存建築物の地震対策 東京大学名誉教授 小谷俊介

報告: 近年の震災からの経験 UNCRD兵庫事務所所長 安藤尚一
ネパールにおける建築基準の実施 NSET アモッド・ディキシット (ネパール)
建築基準実施の枠組みーHESIの経験から UNCRD兵庫事務所 ジシュヌ・スベディ

- 16:35-16:50 討論
- 16:50-17:00 まとめ・閉会のことば

2008年11月29日(土)

第三部 地震による死傷者を少なくする方策を考えるーノン・エンジニアドを中心にー

協力: 防災科学研技術研究所、三重大学

* 第三部の実施運営にあたっては文部科学省(MEXT)の助成を受けています。

- 13:00-14:40 【セッション1】 ファシリテータ: 三重大学 花里利一

開会挨拶: 建築研究所理事長 村上周三

基調講演: 四川地震の被害と教訓(仮題) 中国地震局地質研究所 何永年客員教授 (中国)
ノン・エンジニアド構造の耐震性向上の取り組み(仮題) インド内務省国家地震顧問 アナンド・アリア教授 (インド)

報告: 近年の地震被害の教訓とアジア諸国との共同研究開発の取り組み 建築研究所 榎府龍雄
ポスター展示のインデキシングセッション

- 14:40-15:00 休憩・ポスターセッション
- 15:00-17:00 【セッション2】 パネルディスカッション ファシリテータ: 建築研究所 榎府龍雄

パネリスト: フィリピン大学 マルケサ・レイアス (フィリピン)、 ガジャマダ大学 イマン・サティヤルノ (インドネシア)
政策研究大学院大学 岡崎健二 (日本)
東京外国語大学客員教授/NPO国境なき技師団事務局次長 塚本俊也 (日本)

まとめ: 共同研究開発プロジェクト研究運営委員長/北海道大学名誉教授 石山祐二

- 17:00 閉会

17:15-18:15 意見交換会
基調講演者、パネリストを交えてリラックスした雰囲気での意見交換会を開催します。(別途申し込み要:参加費1000円)



